

中央大学父母連絡会

# Kusa no 草のみどり Midori

July

7

2019年7月

Vol.314

巻頭特集

What's New! 文学部

CHUO UNIVERSITY  
MIDDLE BRIDGE

GLOMAC

Global Management of Chuo University

# 長に聴く 学部が拓く未来

## リーダーとしての資質を身につけ グローバルなキャリア形成を

従来の枠組みを超えた学びを  
提供しグローバルリーダーの  
育成をめざす

経営学の専門科目を軸に、7割の授業を外国語で行い、海外留学や海外インターンシップなど海外での学びを必修とすることで、専門性と実践力を身につけたグローバルビジネスリーダーを育成することが国際経営学部の目的です。グローバル感覚のあるリーダーとしての資質を鍛えることは、あらゆるビジネス環境のもとで、自らキャリア形成の道を拓く力を身につけることにもなります。現在、多くの企業が活動領域を世界に拡大しており、語学力、異文化理解力など世界標準に合う人材を求めています。これまで中央大学で培われたリソースを融合し、従来の枠組みを越えたコンテンツを提供することで、国際教養系の学部と一線を画するプロフェッショナルの育成をめざします。

海外留学生との交流を通じて  
日常的に国際感覚を養う

国際経営学部の定員は300名。そのうち50名が海外からの留学生枠です。少人数のなかで多様な人種や文化、価値観を持つ

た留学生と日常的に接することで、国際感覚を肌で感じることが出来ます。

また自習やグループディスカッション、空き時間の休憩に利用できる「アカデミックエリア」と呼ばれるコモンスペースを新設しました。ここにはネイティブの教員や専門科目の教員が常駐し、リラクセスした環境で語学や専門科目の相談を受けるなど、学生の学修をサポートする体制を整えています。既存のGスクエアも活用して積極的に留学生と交流すれば一層視野を広げることが出来るでしょう。

4月に入学した第一期生のほとんどは夏季に短期留学をします。9月には秋入学の留学生も入ってくるので、一層モチベーションも高くなるでしょう。そこからどんな変化が生まれるのか、今から楽しみにしています。

学生自身の意志でつくりあげる  
新学部ならではの期待

本学部の理念として「世界を動かす人になろう (Be Ahead of the World)」という言葉を掲げています。この言葉には、物心ともに真に豊かな世界人となり、持続可能な社会を構築する素養を身につけた人材に育ってほしい、という思いが込められてい



河合 久 国際経営学部長

ます。ですから出口としてはビジネス領域だけでなく、公的機関やNPOなどさまざまな分野で活躍できることをめざしています。学部新設にあたり専任教員30名のうち、24名は外部から新たにお招きしました。ネイティブの方やビジネスの第一線で活躍した経験のある方など、経歴もさまざま。こうした方々から直に学ぶことで単にスキルを修得するだけでなく、人格形成にも磨きをかけてほしいと思います。

新入学生を迎えた挨拶で、私は「この学部は学生自身がつくっていくものだ」と話しました。学生はその意味を理解し、非常に意欲的に取り組んでくれています。初代学部長として、こうした学生の意志や教員の意欲を汲み取り、新しい挑戦を力強くバックアップしていきたいと考えています。



INFORMATION TECHNOLOGY  
& LAW  
ICHIGAYA TAMACHI LINK

# 新学部

# 新しい「国際系」

## IT×LAW×GLOBALの 知見を活かす次世代型人材を育成

**志願倍率61倍の難関を突破し  
やる気に満ちあふれた第一期生**

世界各国が次世代産業の柱と位置づけているのはAIです。だからこそ、先進技術を含む「情報の仕組み（IT）」と、デジタル社会で必須となる「情報の法学（LAW）」、そして世界を見据えた「グローバル教養（GLOBAL）」を融合させた教育が急務。国際情報学部（ITL）は、この社会的要請に応えるべく、「IT」「LAW」「GLOBAL」の「3本の矢」によるシナジーを最大化する教育と人材育成を重要視しています。

初年度（2019年度）の入試では、定員150名（一般入試募集定員100名）に対して出願者が6100名超。実績のない新学部にはリスクを感じる受験生もいるなかで、第一期生は学部の理念をしっかりと理解してくれています。従来からの「中大生らしさ」である真面目さに加え、積極性やチャレンジ精神も顕著。猛烈に「前のめり」な気概やバイタリティーには目を見張るものがあります。

入学直後から熱意にあふれ、「IT」に興味を持つ一部の学生は、理工学部が主催する「データ分析フェスティバル」に向け

て日々プログラミングの研鑽を積んでいます。「LAW」に関心を持つ学生は、六法を片手に予習に励み、授業内容を先取りして質問してきます。すでに将来に向けた意欲やビジョンを熱く語る学生もいるほどです。

### 学内外から広く学び 複眼的な考察を進めてほしい

ITLでは、多様な社会の課題に対して、常に「IT」「LAW」「GLOBAL」の3つの観点から考察を進めます。これは、ゼミ活動や卒業論文の制作にも不可欠な姿勢であり、社会での実践力にも直結します。

実社会を意識した取り組みとしては、産官学連携にも注力します。世界進出を果たしたゲーム業界のリーディングカンパニーや、日本の情報政策を牽引する総務省などからも講師を迎え、企業の国際戦略や最先端の政策事例に触れるチャンスは、学生にとって大きな刺激になるはずです。

また、若くして実績豊富な教員から、グローバル社会の最前線で実務経験を積んできた元大使の教員まで、ITLは教員の顔ぶれも多彩。将来の目標が定まっていなくても、さまざまな教員との語らいのなかで、将来像を明確にするきっかけが見つ

かるはずですよ。

2年次の後期からは、本格的なゼミである「国際情報演習」がスタートします。早期から専門的な研究に挑戦することで、就職活動でアピールできる内容が増えるという副次的効果も期待できますので、ぜひ2年次の前期中に、将来に向けたある程度のベクトルを見出してほしいと考えています。

### 学生の数だけ可能性がある

卒業後は、IT分野の素養を活かせる電気・情報通信分野から、国際機関、日本の情報政策を主導する国家公務員や、各自自治体で情報戦略を進める地方公務員、法学的な観点で不可欠な広報や広告・メディア関連分野まで、幅広いフィールドでの活躍が期待できます。資格を取得して土業をめざす学生や、起業をめざす学生、NPOなどで社会問題の解決をめざす学生もいるでしょう。ITLは、どんな業種業界においても引く手あまたの人材へと成長できる学部だという確固たる自信があります。どうぞ学生たちの今後の活躍にご期待ください。



国際情報学部長 平野 晋